

報告

特別支援教育における 学習支援ボランティア学生と派遣校教師との連絡体制について ——学習支援ボランティア学生の立場から——

山本真由美

徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

要約：徳島市、徳島県の特別支援教育への支援事業の一環として大学生を学習支援ボランティアとして小学校や中学校に派遣する事業を開始して7年目を迎えている。その中で、特に両者の連絡体制に課題があることが判明してきた。本調査では、ボランティア学生を対象として質問紙調査を実施し、連絡記録表の使用の有無、使用した場合の効果などについて明らかにすることを目的とした。その結果、使用している割合は高かった。しかし、連絡記録表が役立ったと回答したのは3割程度であり、派遣校の担当教員との連絡は8割以上が口頭で行われていたことが明らかとなった。

(キーワード：特別支援教育，学生ボランティア，連絡体制，連絡記録表)

The contact system between learning support volunteers and schools at special needs education —from the position of learning support volunteer students—

Mayumi YAMAMOTO

Institute of Socio-Arts and Sciences, The University of Tokushima

Abstract: Seven years have passed since we started the project to dispatch learning support volunteer students to elementary and middle schools as part of its assistance to special education in Tokushima Prefecture and Tokushima city. In this report we investigated the utility of the table to contact and record between learning support volunteers students and school teachers. The method was a questionnaire. The participants were learning support volunteer students. The results obtained were as follows: this table had a high percentage of use (96.8%). But only 30 % of the respondents thought the table was useful. The verbal contact between learning support volunteers students and school teachers had been over 80%.

(Key words: special needs education, learning support volunteers, contact system, table to contact and record)

はじめに

特別支援教育への支援事業の一環として、徳島市教育委員会や徳島県教育委員会と連携し、大学生(大学院生を含む)を学習支援ボランティアとして小学校や中学校に派遣する事業を開始して7年目を迎えている。

特別支援教育は、2007年4月から「学校教育法の一部改正」により新しい法律が施行され、新しい体制が敷かれることになった。この改正法では、小中学校の通常学級においても障害のある児童生徒が在籍していることが明記され、彼らのための支援体制を取ることを前提としている。特別支援教育の方向として、すべての子どもが通常学級に在籍し、この学級での学習や活動を中心としながら、特別な教育的ニーズを補償するためにさまざまな支援をするという取り組みを目指すことにな

る。そのような状況において、現在、通常学級にADHD、自閉症、学習障害といった発達障害の子どもが在籍している。原則40人一学級制の中で、学級担任が、すべての特別な教育的ニーズのある子どもの指導と学級全体の運営を行って行くことは物理的に難しい。そこで、各自治体は、特別支援教育へのさまざまな支援事業を展開している¹⁻⁶⁾。大学生をボランティアとしてニーズのある小中学校に派遣する事業もその一環である。

この事業に対する評価は概ね肯定的であり、期待もある⁸⁾が、課題もある。山本・津島⁹⁾は、学習支援ボランティア学生を対象としてボランティア活動に関する実態調査を実施した。その結果、教員との打ち合わせの時間や内容に課題があることが明らかになった。野津・石田⁵⁾も学校側から「子どもの指導・支援方法についての打合せ時間を十

分に確保できなかった」という意見があったと報告している。渡部・金山・武藤⁷⁾はコミュニケーション・カード(連絡記録表と同様の機能を担うもの)を使用することで、担任からのコメントが向上したと報告している。本派遣事業でも、徳島市教育委員会と協力して渡部・金山・武藤⁷⁾のコミュニケーション・カードを基にボランティア学生と派遣校教師との連絡を行う目的で連絡記録表を作成し、2009年度から使用している。連絡記録表について7割弱のボランティア学生が指導教師から返事があり、記載した内容が支援に活かされていると回答している⁹⁾。

連絡記録表の使用について特別支援教育コーディネーターに調査した山本¹⁰⁾は、約7割の特別支援教育コーディネーターが使用しており、使用している特別支援教育コーディネーターすべてが連絡記録表は有用であったと報告している。

本報告では、連絡記録表の使用を開始して3年が経過し、ボランティア学生に連絡記録表がどの程度認知され、使用しているのか、記録表の改善点、使用の効果などについて質問紙を用いて調査し、今後の学習支援ボランティア活動に役立てる資料とすることを目的とした。

方 法

1. 研究協力者

(1) 内訳

2011(平成23)年度徳島市の学習支援ボランティアに参加したボランティア学生52名中34名であった。表1にその内訳を示した。

(2) 調査方法

質問紙調査法を用いた。

(3) 調査実施日

2011年3月7日に徳島市教育委員会が実施した研修会で実施した。

(4) 調査用紙の配布回収方法

徳島市教育研究所が実施した研修会当日に質問紙調査用紙を配付し、その場で調査協力を依頼した。研修会終了後に同調査用紙を回収した。

(5) 統計分析法

回答は、SPSS16.0で分析を行った。

表1. 所属大学別, 学部学年別, 性別の 配属校一覧

所属大学	学部	学 年	性別	配属校		合 計	
				小学校	中学校		
A大学	学部	3	男性	1	0	1	
		4	女性	1	0	1	
B大学	学部	3	女性	0	1	1	
		4	男性	1	0	1	
		大学院	4	女性	4	2	6
			1	男性	1	1	2
		大学院	2	女性	1	0	1
			2	女性	0	1	1
C大学	学部	2	男性	1	0	1	
		4	男性	5	0	5	
		4	女性	8	1	9	
D大学	学部	2		1	0	1	
		3	女性	0	1	1	
	大学院	4		1	1	2	
		3	女性	0	1	1	
	合 計				25	9	34

注: 実人数は33名であるが、内1名は小学校と中学校に派遣されていたため、34名となっている。

結果と考察

1. 回答者の属性

(1) 回収率

ボランティア参加学生の65.4%が回答した。回収率は100%であった。有効回答率は97%であった。

2. 連絡記録表について

(1) 連絡記録表の認知度

表2に示すように連絡記録表を知っている比率は、93.9%であった。徳島市では、毎年、ボランティア活動前に研修を開催し、その一環で連絡記録表についての説明を実施している。2009年度からその認知度はさらに高くなっている⁹⁾。毎年活動開始前に実施している研修会の効果の可能性が高い。

表2. 連絡記録表の認知度(%)

連絡記録表を	%
知っている	93.9
知らない	6.1
合 計	100.0

(2) 連絡記録表の使用の有無

連絡記録表を知っていると回答した者のうち、連絡記録表を使用したのは、表3に示す通り、96.8%であった。知っている者のほとんどが使用していたと言える。

表 3. 連絡記録表の使用の有無 (%)

連絡記録表を	%
使用した	96.8
使用していない	3.2
合計	100.0

注：知っていた 31 名の比率である。

(3) 使用した連絡記録表の種類

使用した連絡記録表の種類別の比率を示したのが、表 4 である。様式 A(資料参照)が小学校と中学校を合わせて 60%と一番高かった。様式 A(資料参照)は徳島市がモデルとして派遣校とボランティア学生に提示している様式である。様式 E, 様式 F(資料参照)がそれに続いている。山本¹⁰⁾が特別支援教育コーディネーターに実施した調査で「利用しやすい様式は、時間を掛けずに書きやすく、課題がわかりやすいもの」であった。様式 A(資料参照)の利用が高いということは、その条件を満たしているのかもしれない。

表 4. 使用した連絡記録表の種類 (%)

種類	%
A 小学校用	50.0
A 中学校用	10.0
B	0.0
C	3.3
D	0.0
E	16.7
F	10.0
G	0.0
H	6.7
未回答	3.3
合計	100.0

注：使用した 30 名の比率である。

(4) 使用した連絡記録表への返信状況

表 5 は、ボランティア活動中に使用した連絡記録表への派遣校教師からの返信状況を示したものである。ボランティア活動期間中ずっと返信があったのが 40%であったのに対して、ボランティア活動期間中ずっと返信がなかったのが 23.3%であった。また、返信がだんだん減って行ったり、なくなったりしたのを合わせると 26.7%となる。山本¹⁰⁾は、特別支援教育コーディネーターのうち、連絡記録表の存在を知っているのが 69.6%であり、その中で連絡記録表を用いて連絡を取り合っ

ているのが 68.8%であったと報告している。ずっと返信があったという回答とだんだん返信が減った、なくなったという回答を合わせると 66.7%となり、ほぼ同様の比率であると言える。

表 5. 使用した連絡記録表への返信状況 (%)

No	項目	%
1	ボランティア活動期間中、ずっと返信があった	40.0
2	最初、返信があったが、だんだん減った	16.7
3	最初、返信があったが、だんだん少なくなり、なくなった	10.0
4	最初はなかったが、だんだん増えた	3.3
5	担当の先生が変わってから返信があるようになった	0.0
6	担当の先生が変わってから返信がなくなった	0.0
7	ボランティア活動期間中、返信はずっとなかった	23.3
8	その他	6.7
	合計	100.0

(5) 使用した連絡記録表の役立ち感

使用した連絡記録表の役立ち感について示したのが表 6 であり、役立ち内容と比率を示したのが、表 7 である。

表 6. 使用した連絡記録表の役立ち感 (%)

項目	%
非常に役立った	10.0
役立った	23.3
あまり役立ってない	26.7
全く役立ってない	26.7
未記入	13.3
合計	100.0

表 6 から「非常に役立った」「役立った」を合わせると 33.3%であり、「あまり役立ってない」「全く役立ってない」を合わせると 53.4%であった。連絡記録表を使用しているが、役立っていないという回答が半数以上であると言える。

表 7 からは、(非常に)役立った内容として「1日の活動の流れがわかった」、「支援対象の子どものことがわかった」、「支援方法についてわかった」、「指導方法がわかった」、「活動中に疑問に思ったことが理解できた」などがあつた。逆に「(全く)役に立たなかった内容として「具体的な対応方法がわかった」などがあつた。このことは、山本¹⁰⁾が特別支援コーディネーターに実施した調査の

中で「現場での支援は多種多様で、子どもによっても異なるので、知識の上に、その子にあった支援の仕方を伝えていく時間の確保がほしい」、「学生に子どものプライバシーをどこまで伝えてよいか、悩む時がある」などの意見があったことから、派遣校は児童生徒のプライバシーの確保とボランティア学生との連携との間で苦慮していることが伺える。

表7. 使用した連絡記録表の役立ち内容と程度(%)

No	項目	当てはまる は非常に	当てはまる はまる	当てはまらない はあまり	当てはまらない 全く
1	1日の活動の流れがわかった	44.0	28.0	20.0	8.0
2	支援対象の子どものことがわかった	24.0	36.0	28.0	12.0
3	支援方法についてわかった	24.0	32.0	36.0	8.0
4	指導方法がわかった	8.0	48.0	36.0	8.0
5	活動中に疑問に思ったことが理解できた	16.0	40.0	36.0	8.0
6	子どもの前では言えない内容の相談ができた	25.0	16.7	41.7	16.7
7	具体的な対応方法がわかった	12.5	20.8	54.2	12.5

(6) 連絡記録表に対する要望

表8は、連絡記録表に対する要望についてまとめたものである。「質問欄がほしい」、「1日の流れの変更を知らせてほしい」、「連絡記録表を使った指導をしてほしい」などがあった。ボランティア学生は、連絡記録表で派遣校の教員と連絡を取るために質問欄を必要としていると言える。また、1日の流れの変更を連絡記録表で知らせてほしいと考えている。

表8. 連絡記録表に対する要望(%) (複数回答)

No	項目	%
1	質問欄がほしい	39.1
2	1日の流れの変更を知らせてほしい	30.4
3	連絡記録表を使った指導をしてほしい	27.1
4	具体的な書き方の指導がほしい	26.1
5	連絡記録表のやりとりをする担当をはっきりしてほしい	21.7
6	その他	13.0

(7) 担当教員との連絡方法

表9は、ボランティア学生と派遣校の担当教員との連絡方法を尋ねた結果である。口頭による連絡の比率が最も高かった。特別支援教育コーディネーターは直接学習支援ボランティア学生と話ができない時に連絡記録表を利用しており¹⁰⁾、この結果と一致していると言える。

表9. 担当教員との連絡方法(%) (複数回答)

表9. 担当教員との連絡方法(%) (複数回答)

No	項目	%
1	口頭で行った	84.4
2	連絡記録表で行った	50.0
3	連絡はなかった	9.4
4	メールで行った	0.0
5	その他	3.1

(8) ボランティア活動前に準備しておきたい内容

表10は、学習支援ボランティア活動を開始するまでに準備することが望ましいとボランティア学生が考えている内容について示したものである。知識、行動態度に分けられる。知識としては、「障害に関するもの」、「学校や学級に関するもの」、「発達に関するもの」、「子どもについての理解」、「学習指導法」、「子どもが関心を持っていること」、「学習内容についての準備」などがあり、行動や態度としては、「子どもとの関わり方」、「子どものほめ方」、「子どもの叱り方」、「コミュニケーションの取り方」、「自主的行動できる姿勢」、「言葉遣い」、「相談できる姿勢」、「発言の仕方」などがあつた。

表10. ボランティア活動前に準備しておくことが望ましい内容(%) (複数回答)

No	項目	%
1	障害に関する知識	72.7
2	子どもとの関わり方	66.7
3	自主的行動できる姿勢	60.6
4	コミュニケーションの取り方	60.6
5	子どものほめ方	60.6
6	学校・学級に関する知識	57.6
7	発達に関する知識	54.5
8	子どもについての理解	54.5
9	子どもの叱り方	54.5
10	学習指導法	48.4
11	言葉遣い	45.5
12	子どもが関心を持っていること	42.4
13	学習内容についての準備	42.4
14	相談できる姿勢	39.4
15	発言の仕方	30.3
16	その他	0.0

ボランティア活動で支援の必要な児童生徒に実際に対応する中でボランティア学生は具体的にどのような声かけをすれば良いのかに悩む場合がある。児童生徒の状態に関しては、本学で定期的に行っている勉強会で検討したり、学生自ら調べたりしている。このようなことを事前しておくことが望ましいと考えていると言える。コミュニケーションの取り方、自主的に行動できる姿勢、言葉遣い、相談できる姿勢、発言の仕方などは、児童生徒への対応だけではなく、派遣校の教員との対応から得られたものとも言える。このように学習支援ボランティア活動は、大学生にとって他者のことを考えた発言や行動を行う経験の機会になり、人間力育成の機会となっている。

まとめと今後の課題

本報告では、2009年度から使用を開始している連絡記録表がどの程度認知され、使用しているのか、連絡記録表の改善点、使用の効果などを学習支援ボランティアに対して質問紙を用いて調査し、今後の学習支援ボランティア活動に役立つ資料とすることを目的とした。

その結果、連絡記録表の認知率や使用率は2009年度に実施した調査結果よりも上昇していた。このことは、連絡記録表が派遣校にも浸透してきたことを示していると言える。

しかし、連絡記録表の使用が学習支援ボランティア活動に役立ったと回答しているのは半数程度であり、この点に今後の課題があると言える。連絡記録表の様式としては、質問欄がほしいというものがあった。また、連絡記録表を使用して派遣校から1日の流れの変更を知らせてもらい、指導をしてほしいというものがある。ボランティア学生からみれば、せっかく書いているのだから、それを基に指導してほしいと考えていると言える。2010年度に特別支援教育コーディネーターに実施した調査では、直接話ができない時に連絡記録表を利用していることが明らかとなっており¹⁰⁾、ボランティア学生と派遣校とでは連絡記録表に対する意識に差があるのかもしれない。

今後は、今回の調査結果を教育委員会と派遣校に伝え、特別支援教育の対象となっている児童生

徒に適切な支援をボランティア学生ができるように、また、大学生にとってもよい経験であったと評価してもらえるようにしていきたい。

参考文献

- 1) 兵庫県教育委員会：兵庫の特別支援教育，2006
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~sho-bo/21hyogonotokube.pdf> (2009年9月17日)
- 2) 神戸市小学校長会：続変容する子どもたち，みるめ書房，2004
- 3) 京都市教育委員会：総合育成支援員の募集，2008，
<http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000057947.html> (2009年9月17日)
- 4) 松尾 剛・杉村智子：学習支援ボランティアにおける学生の学びを促すカンファレンス構造の検討——事後の振り返りとフィードバックに注目して，教育実践研究，18，119-126，2009
- 5) 野津吉宏・石田耕一：「大学性による学習支援ボランティア(アシスタントティーチャー)事業」の成果と課題，埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要，8，61-69，2009
- 6) 戸ヶ崎泰子・酒井祐市・溝邊由美子：小中学校の特別支援教育における学生支援員活用の試み，宮崎大学教育文化学部紀要，教育科学，19，135-146，2008
- 7) 渡部太郎・金山好美・無籐 崇：通常学級の担任教師と教員補助者のコミュニケーション・カードの改善による担任教師からのコメントの増大，行動分析学研究，22，39-48，2008
- 8) 山本真由美・瀬部あゆみ・島 治伸：学生ボランティアに対する派遣校教師の評価，徳島大学総合科学部人間科学研究，17，109-128，2009
- 9) 山本真由美・津島知彦：学習支援ボランティアの派遣校に対する評価，徳島大学総合科学部人間科学研究，18，87-103，2010
- 10) 山本真由美：特別支援教育における学習支援ボランティア学生と派遣校教師との連絡体制について——特別支援コーディネーターの立場から，大学教育研究ジャーナル，8，113 - 121，2011

【資料】

2011/03/07

学習支援(特別支援教育)ボランティアに関する意識調査

今年度、小学校・中学校の児童・生徒のために、学習支援ボランティアとしてさまざまな支援をしていただき感謝しています。

さて、次年度のボランティア学生さんがスムーズに学習支援ボランティア活動に入るためにどのような準備が必要かを知るためのものです。学習支援ボランティア活動の意義、役立ったこと、困ったこと、記録連絡表の利用法、派遣校の教員との連絡等についてお伺いします。今のあなたの思いや考えに基づき、記入をお願いします。

なお、この調査への回答はあなたの自由意志に基づくものです。調査結果は統計的に処理され、あなたの回答内容を個人的に取り上げたり、公表したりすることはありません。これによってあなたのボランティア活動を評価することはありません。

次年度以降の学習支援ボランティア活動への指導を向上させることを目的とした調査です。後輩のために是非、ご協力をお願いします。

以下の質問の適切なアルファベット、もしくは、あてはまるところに○印や✓印、あるいは直接回答してください。

調査担当者(徳島大学総合科学部人間社会学科 後藤やよい・山本真由美)

調査に関する問い合わせ先 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

臨床発達心理学研究室 山本 真由美

yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp(E-mail); 088-656-7192(TEL & FAX)

FQ1. 所属大学

A. 四国大学	B. 徳島大学
C. 徳島文理大学	D. 鳴門教育大学

FQ2. 所属

A. 学部	B. 大学院
-------	--------

FQ3. 学年

A. 1年 B. 2年 C. 3年 D. 4年

FQ4. 配属校

A. 小学校	B. 中学校
--------	--------

FQ5. 性別

A. 男	B. 女
------	------

本調査用紙回収期限：平成23年3月7日(月)

学習支援ボランティア活動についてお伺いします。
次年度のボランティア学生さんのために記入をお願いします。

A. 学習支援ボランティア経験についてお伺いします。例

非常に あてはまる	あてはまる	あまり あてはまらない	全く あてはまらない

A-1 学習支援ボランティア活動はあなたにとってどの程度意義がありましたか。あてはまるところに○印をつけてください。

A-2 どのようなことがあなたの役に立ちましたか、以下の項目毎にあてはまるところに○印をつけてください。

(1) 子どもへの支援方法を知ることができたこと			
(2) 子どもとの関わり方を知ることができたこと			
(3) 学習指導法を知ることができたこと			
(4) 子どもへの言葉のかけ方を学べたこと			
(5) 学校現場の実際を知ることができたこと			
(6) 子どもへの指導方法を知ることができたこと			
(7) 支援の必要な子どもへの寄り添い方がわかったこと			
(8) 子どもが分かりやすい説明の仕方がわかったこと			
(9) 子どもへの対応方法を知ることができたこと			

1

B-4 記録連絡表に書いた内容に返答はありましたか。以下の項目を読み、あてはまるものを1つ選び、✓印をつけてください。

- (1) ボランティア活動期間中、ずっと返答があった。
- (2) 最初、返答があったが、だんだん減った。
- (3) 最初、返答があったが、だんだん少なくなり、なくなった。
- (4) 最初はなかったが少しずつ増えた。
- (5) 担当の先生が変わってから返答があるようになった。
- (6) 担当の先生が変わってから返答がなくなった。
- (7) ボランティア活動期間中、返答はずっとなかった。
- (8) その他 (

非常に あてはまる	あてはまる	あまり あてはまらない	全く あてはまらない

B-5 記録連絡表は先生との連絡にどの程度役に立ちましたか。あてはまるところに○印をつけてください。

<B-5. で「全くあてはまらない」と回答された方はB-8へお進みください>

B-6 どのように役に立ちましたか。次の項目を読み、あてはまるところに○印をつけてください。

(1) 支援対象の子どものことがわかった。			
(2) 支援方法についてわかった。			
(3) 1日の活動の流れがわかった。			
(4) 指導方法がわかった。			
(5) 具体的な対応方法がわかった。			
(6) 子どもの前では言えない内容の相談ができた			
(7) 活動中に疑問に思ったことが理解できた。			

3

非常に あてはまる	あてはまる	あまり あてはまらない	全く あてはまらない

A-3 どのようなことで困りましたか、以下の項目毎にあてはまるところに○印をつけてください。

(1) 学習指導法がわからなかったこと			
(2) 子どもへの注意の仕方がわからなかったこと			
(3) クラスによって子どもへの対応方法が異なること			
(4) 子どもへの関わり方がわからなかったこと			
(5) 先生との打ち合わせ時間がなかった もしくは少なかったこと			
(6) クラスや学校によって支援方法が異なっていること			
(7) 子どもに質問された時、適切に回答できなかったこと			

B. 記録連絡表についてお伺いします。

B-1. 記録連絡表を知っていますか。 A はい B いいえ

<「はい」と回答した人は、次のB-2へ「いいえ」と回答した人はB-8へお進みください>

B-2. 記録連絡表を使いましたか。 A はい B いいえ

<「はい」と回答した人は、次のB-3へ「いいえ」と回答した人はB-8へお進みください>

B-3. 使用した記録連絡表はこの調査用紙の最後につけているどの記録表に似ていますか。あてはまる記号を選んで、✓印をつけてください。

- (1) A-小
- (2) A-中
- (3) B
- (4) C
- (5) D
- (6) E
- (7) F
- (8) G
- (9) H

2

B-7. 記録連絡表に対する要望はどのようなものですか。以下の文章を読み、あてはまるものすべてに✓印をつけてください。

- (1) 質問欄がほしい。
- (2) 具体的な書き方の指導がほしい。
- (3) 記録連絡表のやりとりをする担当をはっきりしてほしい。
- (4) 1日の流れの変更を知らせてほしい。
- (5) 記録連絡表を使った指導をしてほしい。
- (6) その他 (

B-8. 担当教員との指導に関する連絡方法について質問します。以下の文章を読み、あてはまるものすべてに✓印をつけてください。

- (1) 口頭で行った。
- (2) 記録連絡表で行った。
- (3) メールで行った。
- (4) 連絡はなかった。
- (5) その他 (

C. 事前に準備しておいた方がよいと思うことについてお伺いします。以下の文章を読み、あてはまるものすべてに✓印をつけてください。

- (1) 学習内容についての準備
- (2) 言葉遣い
- (3) 子どもとの関わり方
- (4) コミュニケーションの取り方
- (5) 学校・学級に関する知識
- (6) 発達に関する知識
- (7) 障害に関する知識
- (8) 相談できる姿勢
- (9) 自主的に行動できる姿勢
- (10) 発言の仕方
- (11) 子どもについての理解
- (12) 子どもが関心を持っていること
- (13) 子どものほめ方
- (14) 子どもの叱り方
- (15) 学習指導法
- (16) その他 (

4

D. 今回の学習支援ボランティア経験は、社会に出たときにどのように役立つと思いますか。

質問は以上です。記入漏れがないか確認しましょう。
ご協力ありがとうございました。次年度の活動に活かします。

本調査用紙回収期限：平成23年3月7日（月）

【様式A-小】

小学校例

学習支援ボランティア連絡記録表

()月()日()曜日 ボランティア氏名()

「今日の活動」と「記号」だけ担当者が記入します。それ以外は、ボランティアが記入します。

記号例：○その支援を続けてください ☆引き続き注意して見てください ?説明してください

今日の活動	
-------	--

	教科	気がついたこと・支援したこと	記号	良かったこと	記号
朝の時間					
1時間目					
年 組					
2時間目					
年 組					
業間休み					
3時間目					
年 組					
4時間目					
年 組					
給食・昼休み					
5時間目					
年 組					
6時間目					
年 組					
放課後					

その他

【様式A-中】

中学校例

学習支援ボランティア連絡記録表

()月()日()曜日 ボランティア氏名()

「今日の活動」と「記号」だけ担当者が記入します。それ以外は、ボランティアが記入します。

記号例：○その支援を続けてください ☆引き続き注意して見てください ?説明してください

今日の活動	
-------	--

	教科	気がついたこと・支援したこと	記号	良かったこと	記号
朝の時間					
1時間目					
年 組					
2時間目					
年 組					
業間休み					
3時間目					
年 組					
4時間目					
年 組					
給食・昼休み					
5時間目					
年 組					
6時間目					
年 組					
放課後					

その他

【様式B】

学習ボランティア連絡記録表

()月()日()曜日

太枠の中は担任の先生お書きください。

ボランティア氏名()

	教科	してほしい支援	支援の中でよかったこと	支援の中で困ったこと	○支援OK ★注意お願い ?説明してね
1時間目 ()年()組					
2時間目 ()年()組					
20分休み ()年()組					
3時間目 ()年()組					
4時間目 ()年()組					
給食 ()年()組					
昼休み・そうじ ()年()組					

その他

【様式D】

学習支援ボランティア(特別支援教育)連絡記録表(小学校用)

月 日 曜日

ボランティア氏名()

	担当教員の支援して欲しいこと	支援内容・気がついたこと・質問
1時間目 年 組	教科() 単元名()	
2時間目 年 組	教科() 単元名()	
3時間目 年 組	教科() 単元名()	
4時間目 年 組	教科() 単元名()	
給食・昼休み 年 組		
清掃 年 組		

ボランティアより

担任より

1年

2年

3年

コーディネーターより

【様式C】

学習支援ボランティア連絡記録表

()月()日()曜日

	教科	具体的な支援の内容	気がついたこと・よかったこと
朝の時間			
1時間目			
2時間目			
休み時間			
3時間目			
4時間目			
給食/昼休み			
5時間目			
担任・コーディネーターより			

【様式 E】

学習支援ボランティア（特別支援教育）連絡記録表（小学校用）

ボランティア氏名()

月 日 曜日	担当教員の支援して欲しいこと	ボランティアの支援内容・質問
1時間目 年 組	教科() 単元名()	
2時間目 年 組	教科() 単元名()	
業間休み		
3時間目 年 組	教科() 単元名()	
4時間目 年 組	教科() 単元名()	
給食・昼休み		
5時間目 年 組	教科() 単元名()	
6時間目 年 組	教科() 単元名()	
放課後		
コーディネーターより		
担任より		

【様式 F】

学習支援ボランティア連絡記録表

ボランティア氏名

月 日 曜日	ボランティアの支援内容	
1時間目 年 組	教科()	
2時間目 年 組	教科()	
3時間目 年 組	教科()	
4時間目 年 組	教科()	
給食・昼休み 年 組		
5時間目 年 組	教科()	
6時間目 年 組	教科()	
放課後		
コーディネーターより		
担任より		

【様式 G】

学習支援ボランティア連絡記録表

()月()日()曜日
ボランティア氏名()

「今日の活動」と「記号」だけ担当者が記入します。

それ以外は、ボランティアが記入します。

記号例: ◎その支援を続けてください ○引き続き注意してみてください
△支援の仕方を変えましょう ?説明してください

時間	教科	今日の活動	支援したこと	記号	気づいたこと 等	記号
朝の活動 ()年						
1時間目 ()年						
2時間目 ()年						
業間休み ()年						
3時間目 ()年						
4時間目 ()年						
給食・昼休み ()年						
5時間目 ()年						
6時間目 ()年						
放課後 ()年						
その他						

【様式 H】

学習支援ボランティア連絡記録表

()月()日()曜日

学級	教科	気がついたこと・支援したこと・良かったことなど	記号
1時間目 組			
2時間目 組			
3時間目 組			
4時間目 組			
給食 組			

☆ 学級、教科、記号は学年担当で記入をお願いします。(月曜夕方までをお願いします)

- 記号 ○ その支援を続けてください
△ 引き続き注意して見て下さい
? 説明して下さい